

2016 年 5 月 13 日

一般社団法人 J B I A 社員各位

定時社員総会開催通知

日頃から、一般社団法人 J B I A 運営に関し多大なるご理解とご協力を賜り有難うございます。さて、定款の定めにより下記要領にて定時社員総会を実施しますのでご案内申し上げます。

一般社団法人 J B I A
代表理事 星野 敏

1. 日時：2016 年 5 月 20 日（金）午前 10 時 30 分
2. 場所：一般社団法人 J B I A 主たる事務所
（東京都港区芝公園 3－5－8 機会振興会館 T－B I S C 内）
3. 議事内容：定時社員総会議案（次頁以降）による
4. 議事要領：法第 38 条「決議においては書面にて行使することができる」併用。
（例年と同様、全国に社員が存在する J B I A 総会の実施は、経済面で合理的な運用をしたいと思いますので、委任または書面（電磁可）決議をご活用下さい。）

書面審議の議決書又は委任状は 2016 年 5 月 19 日午前 12 時までに事務局(soukai@jbja.jp)に必着するようご送付下さい。

定時社員総会議案

議事内容

- I 2015 年度事業報告
- II 第 1 号議案 2015 年度決算承認の件
- III 第 2 号議案 2016 年度予算承認の件
- IV 第 3 号議案 理事補充選任の件

2016 年 5 月 20 日

一般社団法人 J B I A

I 2015 年度事業報告

1. はじめに

2015 年度は、JBIA を法人化して第 4 期の初年にあたり、これは設立初年の任意団体期間 1 年を加えると 8 年目に当たります。そして第 4 期が終わるまでに JBIA を安定した認証機関として運営するべく検討を行うことにしました。その対策として、それまで全国バランスを考慮した役員選定を首都圏中心に変更し、頻繁な会議が行えるように変更しました。

一方、産業競争力強化法による認定創業支援事業の拡大実施のため、全国各地で IM 養成のニーズが高まり、年間 8 回という最大数の IM 研修実施に協力する年となりました。

従って、このような時代背景により BI/IM の在り方は、より一層の多様化対応が迫られる年でもありました。その中であって 2015 年度に実施した事業を如何に報告します。

2. 2015 年度の活動内容

今年度の事業計画に沿って以下の事業を実施しました。

1) 定款記載の事業

(1) 人材育成事業協力

今年度は下記 8 回の研修実施に協力し、128 人の研修修了者を輩出しました。

- ・一般財団法人日本立地センター第 3 3 期、第 3 4 期 IM 養成研修
- ・北海道 IM 養成研修
- ・山形県創業支援マネージャー (IM) 養成研修
- ・福島県街なか産業人材育成事業 IM 養成研修
- ・滋賀県 IM 養成研修
- ・岡山県 IM 養成研修
- ・IM 養成研修大分版

(2) 認定事業 (IM 認定、BI 認定の実施)

2016 年度は東京、北海道、山形、福島、滋賀、岡山、大分の IM 養成研修修了者 87 名、その他 7 名、失効回復 4 名の合計 98 名を JBIA-IM に認定しました。又、既存の認定 IM の中から 9 名をシニア IM に認定しました。

(3) IM 就業斡旋

2015 年度は求人 1 件に対して、同報システムにより広報した結果、会員 1 名の就業 (非常勤) が決定しました。

(4) シンポジウム

関東地区 JBIA 兼関東 IM 連携協議会発足記念シンポジウム
東京にて開催 7 月 10 日

東北地区 東北 IM 連携協議会ワークショップ兼 JBIA シンポジウム
青森市にて開催 7月21日

東北 IM 連携協議会ワークショップ&JBIA シンポジウム
一関市にて開催 11月11日

(5) 国内外機関との交流

東京 関東 IM 連携協議会設立式参加 5月2日

AABI (アジアビジネスインキュベーション協会) 退会

北見 とち財団、北見市工業技術センター 12月27日

(6) 原発被災地復興応援事業

小高ワーカーズベース (BI 実習に併せ事務局訪問) 12月6日

(7) 女性起業家育成 IM 支援事業

女性起業家育成 IM 支援事業検討会開催 全国主要地域から 6 名参加 3月18日

検討委員 7 名を対象に、女性起業家育成に関するアンケートを実施。育成に関するノウハウ提供を受け整理

(8) 情報・広報活動業務

① ウェブサイトによる JBIA の事業紹介

② ウェブサイトによる全国 BI/IM 活動の広報

③ facebook「IMホットライン」(クローズドユーザーグループ)による情報交換促進

④ facebook ページによる一般向けトピックスの広報

⑤ ニュースレター (電子) 発行

2) 理事会等開催状況及び主な審議内容

4月20日 理事、監事、事務局合同にて 2015 年度方針打ち合わせ

5月20日 (電磁) (2014 年度理事会) 定時総会議案承認

5月29日 第1回 役員の役職決定、本年度事業分担

6月14日 第2回 認証機関化の進め方

7月26・27日 第3回 (合宿) 認証機関化具体案検討

9月30日 第4回 認証機関化、新規入会・認定 IM 承認

10月22日 第5回 認証機関化、内規、会則修正

12月4日 第6回 認証機関化、顕彰事業、新規入会・認定 IM 承認

12月26日 第7回 (電磁) 新規入会・認定 IM 承認

1月7日 第8回 (電磁) 新規入会・認定 IM 承認

1月29日 第9回 認証機関化見直し、シニア IM 承認、報酬、総会計画

2月19日 第10回 (電磁) 新規入会・認定 IM 承認

2月29日 第11回 (電磁) 新規入会・認定 IM 承認

3月15日 第12回 (電磁) 新規入会・認定 IM 承認

3月31日 第13回（電磁）新規入会・認定IM承認

【理事会経過概要】

2015年度理事会の中心課題は認証機関化に向けての検討でその概要は以下のとおりであった。

＜検討案骨子＞

- ・ 認証機関化の主体を本部とし、認証基準、認証機構を整備し運営人員を確保する。
- ・ 本部維持の財政基盤としてIM研修受講料とIM認定料の増加を図る。
- ・ 財源増加のためIMの級を三段階制とし、最上位IMに研修実施を委ねることで本部負担を増大せず人材育成機能を拡大させる。

＜検討結果＞

- ・ 上記案にて採算を試みたが、研修数、IM希望数、受講料、認定料を現状より大幅に変更しないと成立せず、現会員にこの案を説明し理解を得る過程を経ていないので、この案を直ちに推進するのは時期尚早と判断した。

＜変更案＞

- ・ 本部（理事会）は、現状事業を踏襲しつつ時代の変化とニーズに合わせ、従来の認証維持を図りつつ、新機軸等認証の質改善に努めることとした。
- ・ そのため、従来の本部機能を軽減するため可能なものを事務局に移管し、事務局の財政面を含めた強化を次年度総会に提案することとした。

3）社員総会開催状況

電磁社員総会

日時：2015年5月29日（金）午前10時30分

場所：一般社団法人JBI A主たる事務所

（東京都港区芝公園3－5－8機会振興会館T-BISC内）

議事内容：定時社員総会議案

I 2015年度事業報告

II 第1号議案 2014年度決算承認の件

III 第2号議案 2015年度予算承認の件

IV 第3号議案 第4期役員承認の件

社員総数22名、出席1名、書面審議者14名、欠席7名

出席率68.2%（総会成立）

出席社員議案賛成率100.0%

議案 全案承認

4) 会員状況（2016年3月末）

・個人	IM	341 人
	Senior IM	60 人
	認定なし	1 人
・BI 内個人	IM	29 人
	Senior IM	12 人
	認定なし	7 人
・団体		18 団体
・協賛個人		4 人
・協賛団体		0 団体

II 第1号議案 2015年度決算承認の件

一般社団法人JBIAは、2015年4月1日より事業計画に基づき、報告書記載の諸事業を実施しました。

収入面；

- ・年間8回という最大数のIM養成研修協力により多数の会員が増え増加がみられた。

支出面；

- ・会員増加に伴い事務局バックヤード業務が増え、事務用品などの消耗品費は増加した。
- ・保有パソコン（TOSHIBA DynabookL36 2010年製造 Windows7）での作業効率が悪くなったため、パソコンを1台レンタルし、賃借料が増加した。

昨年度と比較すると少し支出は増えたが、変わらず正味財産が増えており、期末残高で12,000千円を超えた。貸借対照表、正味財産増減計算書については添付決算資料を参照されたい。また監査報告書についても添付資料を参照されたい。

III 第2号議案 2016年度活動方針ならびに事業計画および予算承認の件

はじめに

現在の第4期の事業方針は、JBIAを認証機関化に向けて準備をする期としていました。そして初年の2015年度はその方策について検討を行う年であり、その概要は2015年度事業報告に記したとおりです。そして2016年度は第5期に向けて具体的に準備をする年としていましたが、認証の在り方については、現状の大幅変更はせず質の向上と目指すと結論づけたので、その決定に則り2016年度事業を立案します。

一方昨今の経済情勢は変化が大きく、雇用環境に関しては、今まで控えていた大手企業の

求人増に対し若年層の人口減少のせいか、有効求人倍率は高く売り手市場の感を示しています。しかし、それらは一部の現象のようで、遠のく年金支給年齢にも拘らず高齢者の雇用は厳しく、非正規労働者や女性の労働環境も健全とは云えないニュースに接します。従って、一部の統計に惑わされることなく多様な現実社会を見極めなくてはなりません。

このことは、JBIA も同様で近年 BI/IM の多様化対応を主張してきましたが、その基本は、JBIA なりに定義をした BI 事業の実施が目的であり、そのための IM 輩出を目指してきましたが、この従来の考え方を逆転させる時期に来了感があります。

即ち現代日本型 BI/IM とは、現存する地域経済の課題を解決するための有効な手段として体系を再編及び欠落要素を補完すべき質的变化に迫られたと感じます。要は BI/IM の従来からの構成要素には変わりはないのですが、目的の変化に合わせて応用する引出しの利用と組み合わせを変えなくてはならないでしょう。このことは最近の地域主催 IM 養成研修の目的からも伺えます。

1. 2016年度事業計画

1) 人材育成、育成協力

(1) 育成事業協力

- ①一般財団法人日本立地センター主催第35期 IM 養成研修
- ②各地域主催 IM 養成研修サポート 北海道、滋賀、大分

(2) IM・BI 認定

- ①日本立地センター IM 養成研修並びに地域独自 IM 養成研修の修了者の80%を IM 認定申請
- ②シニアIM 認定
予算 6万円(審査委員謝金 6名×1万円)
- (3) 女性起業家育成 IM 支援事業
予算50万円(会場費、資料代、旅費交通費、印刷製本費、通信費、その他)
(全国の事例を収集し、成功支援事例等を会員に向け発信する)
- (4) ベスト IM トップランナー事業
予算90万円(旅費交通費、製本印刷費、その他)
(産業創造者として成果を輩出している IM を選び、その知見をフィードバックする)

2) シンポジウム

(1) JBIA シンポジウム

予算 70万円(会場費、レジュメ制作費、講師旅費他) ※昨年の実績に合致す

(2) 各地シンポジウム(共催)

予算 10万円(会場費又は講師費用)

3) 福島原発被災地復興応援事業

予算 5 万円 （2 回程度訪問、活動紹介情報収集 旅費交通費）

4) 情報・広報活動

5) 他地域 I M との交流

予算：旅費 1 5 万円（3 万円×5 か所）

6) 事務局運営費

①事務局業務委託

予算：1 3 0 万円

② 会員データ自主入力システム改良

予算：1 0 万円（会員データシステム改良費）

③ カード製作機

予算：2 0 万円

7) 事務所運営

事務局機能と情報管理の確保。

予算： 3 0 万円（2 3, 7 6 0 円×1 3 ヶ月分）

IV 第 3 号議案 理事補充選任の件

当法人の理事定数は 3 名以上と規定されているが、このたび任期途中の福田稔理事が一人身上の都合により退任したため、その補充選任の必要が生じることとなった。よって、下記の者を新たな理事として選任すべく提案するものである。なお、その任期は、前任者の残任期間（2017 年 5 月の定時社員総会終結時まで）となる。

理事候補者 新城栄一（現事務局長）